施策の方向性　Ⅰ表面化しない孤立の顕在化　Ⅱ安心して過ごせるつながりとの出会い　Ⅲ地域における住民同士のつながりづくり

仮説（課題仮説）

課題

① 相談に至るボトルネックの解消・まわりの気付きと支えの強化
② 多様なライフスタイルに応じた、負担のない・縛られない・興味関心に応じた活動の発掘とコーディネート機能の強化
③ 多様な世代が参加しやすい活動や運営体制の推進

現状

- 現に生活課題を抱える住民や将来抱える恐れのある住民が適切な相談支援につながっていない（潜在的孤立）
- 孤立の自覚はないが、社会とのつながりがほとんど持てていない、客観的孤立層が存在する
- 相談すべき人が相談につながっていない
- 気づいていても周りは踏み込めない・手出しができない
- 自分に合った活動が見つけられない・参加しづらい
- “人と活動をつなぐ機能”が不足している
- 外国人住民の暮らしの課題に行政が十分対応できていない
- 区・町内会における特定の住民や役員への負担集中

真因

- 「相談を有効な手段と認識していない」「相談しても変わらない」という諦め
- 周りは状況を判断できないことや支援スキル・方法への不安による“行動困難”がある
- 情報は発信されていても、世代ごとに情報経路が異なり、「情報が届かない／合っていない」「届いても行動に結びつかない」
- “自分の関心軸に沿った、無理のない範囲でのゆるいつながり”を求める意識が強い
- 人と活動のコーディネート機能を担う職員個人のスキルや人脈に依存しがち
- 外国人施策が多言語化対応（情報発信）になりがち
- 旧態依然とした長年の運営方法が見直しされていない

インプット（誰に）／アクティビティ（どう働きかける）／アウトプット（まずどうなって【直接の結果】）

潜在的孤立層（外国人住民・LGBTQ＋含む）

アクティビティ

人とのかかわりの確保
- 人と関わる機会を持つ（余暇活動・仕事・学校・地域活動その他外出）
- 定期的に連絡を取る相手を持つ

相談先の確保・相談すべき内容の周知・啓発
- 頼れる先や人とのかかわりを意識的に数多く持つ
- 専門的な相談窓口や相談すべき状態・内容を伝える

心理的ハードルや時間的制限を緩和した相談方法の確立
- オンライン相談窓口
- 多言語化対応・通訳の配置・電話通訳

アウトプット

広報啓発
- 広報・SNS・ホームページ（発信件数）

オンライン相談窓口の開設
- あいち電子申請による相談窓口開設
- 電話通訳利用件数

友人・知人・隣人

アクティビティ

身近な支援者としての役割の啓発
- 本人の身近な相談者として話を受け止める
- 本人の日々の状況を観察する
- 自分では抱えきれないと感じた場合には本人に相談するよう伝える
- 本人が相談に行かない場合には代わりに行政機関等に相談し、必要な情報を本人に伝える

アウトプット

広報啓発
- 広報・SNS・ホームページ（発信件数）

支援関係機関

アクティビティ

支援対象者の把握（各相談支援機関）
- 関わっている世帯のなかにまだ相談につながっていない人がいたら積極的に関わる

継続的な支援・参加支援（重層支援センター・よりそい）
- 制度に当てはまらない場合でもつながり続ける
- 地域の多様な社会参加に向けた提案や伴走支援を行う

多機関協働・アウトリーチ（重層支援センター・よりそい）
- 世帯にかかわる必要な機関と連携して支援にあたる

アウトプット

重層支援センター
- 新規相談件数

自立生活相談センター（よりそい）
- 新規相談件数

引きこもり相談窓口（はばたき）
- 新規相談件数

地域づくりコーディネーター（生活支援コーディネーター・社会福祉協議会・カラット等）

アクティビティ

コーディネーターの認知と信頼の獲得
- あらゆる市民の活動や地域の活動に出向く
- 活動をしている人にとって役に立つ情報を伝える
- 活動で抱えている困りごとや悩みを聞き、すぐに対応する
- 市やコーディネーターがやりたいと考えていることを構想段階からキーパーソンに共有し、意見をもらう

新たな活動の創出に向けた支援
- 市民がやってみたいと思っていること、やろうとしていることを把握する
- 活動を始めたり、アイデアを形にできるよう必要なサポートを行う

人と人、人と活動・場を結ぶ
- 人と場、団体（事業者）と団体（事業者）等をつなぐ
- 福祉的な課題を抱えた人が参加できる場や活動を探し、受け入れを要請する（初めて参加する際は、一緒に同行する）
- 繋げた後は、対象者、受け入れ先の双方を定期的にフォローする

アウトプット

コーディネーター活動実績
- 活動団体・事業者への訪問回数
- 活動団体・事業者からの相談件数
- 受け入れ・協力団体数
- 活動団体・事業者につないだケース数

地域活動団体（区・町内会等）

アクティビティ

相互の学びあいの創出
- 他地区の優良事例の学習・情報交換
- 多様なライフサイクルの人が参加できるような運営方法について検討

地域の多様な関係機関との連携構築
- 区・町内会が必要とする知識技能をもった関係者につなぐ
- 多様な世代の参加を促すような工夫（学生・ひきこもり等のボランティア等）

居場所の提供・場の開放
- 子ども・障がい者・高齢者等のための居場所の提供・集会所の開放

アウトプット

区長連合会
- 役員会・地区会・研修会の開催

居場所の提供・場の開放
- 実施箇所数・回数

支援制度利用状況
- コミュニティ備品・公用車貸出制度利用回数
- 市民提案型まちづくり事業交付金新規申請数

コミュニティ・サークル

アクティビティ

興味関心に応じた多様な活動のサポート
- 新たな活動や人との出会いの機会を作る
- 活動するための場やサポート（モノ・カネ・情報）を提供する
- カラットを活用してやってみたいことを形にする
- 気の合う新たな仲間と出会う・つながる

多様な興味関心に応じた学びや交流機会の充実
- 市民大学において市民相互の学びあい・教え合いの交流を活性化する
- 共通の興味関心を持つ新たな仲間と出会う・つながる

外国人コミュニティの活性化・地域住民との共生
- キーパーソンにつなげたり交流の場を提供する
- 日本語を学ぶ機会の提供

アウトプット

カラット運営状況
- 開館日数
- 来館者数
- 貸出備品の種類
- 指定管理者主催イベント数　等

市民大学ひまわり
- 開講数・受講者数

日本語教室（TIRA）
- 開講数・受講者数

アウトカム（何が変わる）

初期

人とのかかわりの確保【KPI初①②】
- 定期的に人と関わる機会がある（余暇活動・仕事・学校・地域活動その他外出）
- 定期的に連絡を取る相手がいる

専門的な機関への相談【KPI初③④】
- 相談フォームから相談がある
- 本人が相談に同意しなくても家族が相談に来るようになる
- 外国人の暮らしの困りごとに関する相談が増える（各相談機関における外国人相談割合）

身近な気になる人を助けようとする【KPI初⑤⑥】
- 支援関係機関と協力して本人を必要な支援につなごうと動く

身近な気になる人に関する相談がある【KPI初⑦】
- 友人・知人・隣人からの相談が増える
- 支援機関に本人と同行して相談に来る

真に支援が必要な人・世帯が明らかになる【KPI初⑧】
- 継続支援世帯数（重層・よりそい）

制度では対応できないニーズや必要な資源が把握される
- 各関係機関の支援領域や抜け漏れが分かる

認知と信頼の獲得【KPI初⑨】
- 顔と名前を覚えてもらい活動に参加すると歓迎されるようになる
- 市民や団体など様々な人や機関から相談が寄せられるようになる

活動や団体の把握・人脈の獲得【KPI初⑨】
- コーディネーターが把握している活動、団体の数や種類が増える
- コーディネーターが相談できる市民や団体、事業者ができる

うまくいった事例の蓄積【KPI初⑨】
- 活動団体や事業者の活動が活発化しているという手ごたえができる
- 新たな活動が立ち上がり始める
- 人と人、人と場所をつなげた事例がいくつか出始める

福祉的な課題を抱えた住民への気づき【KPI初⑩⑪】
- 福祉的な課題を抱えた住民の存在に気づき、気にし始める
- 何ができるか住民同士の話し合いが行われ始める
- いくつかの区・町内会で必要な活動が行われ始める
- 民生委員や支援関係機関と共に対象者を支援する動きが出てくる

市民の多様な活動への参加【KPI初⑫】
- コミュニティ・サークル活動に参加している人が増える

さまざまな興味関心に応じた活動が生まれる【KPI初⑬】
- カラット年間新規登録数（個人・団体）
- カラット貸館利用件数・稼働率
- カラットのイベントへの出店者数、共催イベント実施団体数
- 市民大学の講座数・市民講師数が増える
- 日本語教室のボランティアが増える

中間

相談相手や頼ることのできる相手の確保【KPI中①②③】
- 相談先をいくつも持っている
- 困ったときに頼れる人がいる
- 不安や悩みが生じた場合相談したり話したりする相手がいる

専門的な支援を受けるまでの時間の短縮【KPI中④⑤】
- 早期の相談が増える
- 相談することに意味があると感じる

本人のつながりの回復に向けた参加に向けた支援に関わろうとする【KPI中⑥】
- コミュニティ・サークルに友人・知人を積極的に誘おうとする

制度に馴染まない人や当てはまらない人へも地域資源を活用して支援しようとする【KPI中⑦】
- 制度に当てはまらない場合でもつながり続ける支援が行われている
- 地域の多様な社会参加に向けた提案や伴走支援ができている
- 区や町内会、コミュニティ・サークル等の地域社会と連携した支援を行うようになる

支援機関と関係機関が協働して本人のつながり回復・参加に向けた支援を行う【KPI中⑦】
- 居場所・通いの場・ボランティア活動・就労体験・短時間就労等へのコーディネート・定着支援

関係が安定し支え合いが生まれ始める
- 近所の気になる人の相談等のより解決が難しいものがコーディネーターに相談されるようになる
- 実際に受け入れてくれるケースも出てくる

福祉的な課題を抱えた住民を支える活動の展開・充実【KPI中⑦⑧⑨】
- 支援対象者を紹介した際に、受け入れを検討してくれるようになる
- 対象者の存在に気づき、見守るようになる
- 気になったら関係機関に伝える
- 地域で受け入れたり支えたりするようになる（例：子ども食堂・地域塾・サロン・通いの場）

興味関心から始まる住民の活動の展開・充実【KPI中⑩】
- カラットリピート利用数（年間〇回以上利用する団体数）

最終

望まぬ孤立の防止【KPI終①②③】
- 1人1人が興味関心に沿った活動や居場所に出会える
- 本人にとって心許せるつながりがある

必要な支援へのアクセス権利の保障【KPI終④】
- 本人のことを気に掛ける存在がいる
- 必要な時に必要な支援につながっている

多様な参加の場を通じて人と人とのつながりが強化される
- 支援対象者や世帯の多様な興味関心に合わせた参加の場が提供されている
- 参加・定着に向けた丁寧な伴走が行われている
- 年齢・性別・国籍・属性・境遇に関わらず合理的な配慮をして受け入れている
- 本人を見守り支える身近な支援者として寄り添っている

インパクト（ありたい姿）

さまざまな立場・年齢・境遇にあっても、孤立することなく人とのかかわりの中でよりよく生きていく

誰ひとり取り残されない社会の実現

ふつうに　暮らせる　しあわせ（Well－being）

実施者視点（誰に何をどれだけ実施するか／したか）

対象者視点（誰がどう変わるか／変わったか）